

徳育

今日教育の場において、今や徳育の時代に入ったと言えまいか。現代社会にあつて、知育、体育の間に一つ物足らぬ「モノ」がある。それがこの徳育である。剣道を学ぶについても、氣、劍、体の一致活動が有効なる打突とされている。

教学における知、徳、体どちらが欠けていても人間形成の上では尊ばれない。これを私は三位一体の教育と言っている。

思うに現代社会の進運とともに、知育と体育は異常なまでに発達をきたしたが、科学の進歩発展とともに極めて多岐におよび、微に入り細に亘つていて、今日見る世相は果して吾人が期待したモノであろうか。

今日の教育を見ると一プラス一は二となり、三となつて万物成るとされてはいるが、二で止まつて三がない。対立のままとなつて対峙の心（徳）がない。ここに至つて相互に調和し発展すべき性格の徳育が必要になつて来るのである。

宮 静孝（旧8回生）

人間が他の動物と異なる点は大脳新皮質と古皮質を持ち合せているからだと言われる。目には見えないが、これを育てる新皮質に対しては知育、古皮質以下に対しては体育が必要だとされている。

その間に生じる量と質との調節（膨張と縮小）の役割を果し得るのは、自然界人間でしかない。〈中性的皮質細胞〉言い換えるならば、外に向つて拡張する陽の性格を体育とすれば、内に向つて縮小する陰の性格を知育とは相互に交わり進展しているのである。

この間にあつてことさら時間をかけないでも、どちらの側にあつても施し得る「モノ」それが徳なのである。このことは体力を暴に走らすことなく、知力を利己的に走らすことなく、互にその傲慢さを制し得る力を持つもので、吾人はこれを英知と呼んでいる。

しかして青少年の教育は若いうちに錬われねばならない。そして他人事とせず、自らの自覚に基づいたものでもなければならぬ。

健全育成と言われるゆえんである。

さらには教場のみ止まらず、これを自然界に求め、宇宙浩然の氣を養成しなければならぬ。

ここに至つて翻つて我が母校の論しには、積慶、重暉、養正の三大綱領がある。校歌にある「見よ金剛の不壊の念、神と祖国と人道の三ツに仕えて……」と。

この地球上から人類の破壊より救える道はこの神に捧げた祈り、合目的々徳しかない。よく物心一如と言われるが、今は見る精神文明と物質文明との交わりは世界至るところその道を失い、地球の上をさ迷っているように見える。人間すべからく神より授けられた英知を養い、徳を身につけ襟を正して行動しなければならぬ。

七〇周年を迎えるに当つて、今こそ建学の祖三田義正翁の御慧眼に対し、感謝の念を禁じ得ざるものがある。

天は人の上に人をつくらず、人の下に人をつくらず、青年よ大志をいただけ。

なお私の好きな歌を一句

踏まれても根強く忍べ道草の

やがて花咲く春は来ぬべし